

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1474200183
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム グリーンハウス
事業所名	グループホーム グリーン・ハウス
訪問調査日	平成21年1月28日
評価確定日	平成21年3月2日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1474200183号
法人名	NPO法人痴呆対応型共同生活介護グリーンハウス
事業所名	グループホーム グリーンハウス
所在地	神奈川県海老名市河原口2379-3 (電話) 046-235-4827

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 28日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	15人	常勤 3人	非常勤 12人	常勤換算 4.3人

### (2) 建物概要

建物構造	( 木造 )造り
	2 階建ての ( 1 )階 ~ ( 2 )階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,800 円	その他の経費(月額)	27,200 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 106,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	6,000 円	昼食	9,000 円
	夕食	10,500 円	おやつ	4,500 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (1月28日 現在)

利用者人数	9 名	男性	6 名	女性	3 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	相武台メディカルクリニック、友愛歯科クリニック
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、小田急線、JR相模線の厚木駅から徒歩で約5分程の相模川の河川敷を望む散歩道沿いにあります。近くには相模大橋があり、交通量もありますが、自動車の騒音は感じられません。既存の木造2階建て住宅の内部を改修し使用しているため、使用勝手や設備的な面では多少の制約や不便さがありますが、自宅に居ると同じような生活感や家庭的な雰囲気が保たれています。1日の生活の基本的なスケジュールはありますが、利用者それぞれが日々、自分らしく生活できるよう支援を行っています。介護計画の変更は3ヶ月に1度実施されていると共に、状況変化に応じてその都度見直しが行われ、家族等の同意が得られています。利用者の個人別の支援経過評価表が作成され、毎日の状況変化が記載されていると共に、健康管理一覧表にバイタル、食事・水分摂取量、服薬、排泄、入浴のチェックが毎日記録され、職員が一目で確認できるようになっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題は「運営推進会議の実施」でしたが、昨年の外部評価実施後第1回が開催されました。それ以後の実施がされていないので、定期的な開催を計画されることが望まれます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が参加して自己評価に取り組み自己評価表を作成しています。自己評価をすることで、日々のサービスや支援を振り返りや改善する良い機会と捉えています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年、第1回の運営推進会議が開催されました。今回は初めての開催であったため、運営推進会議の意義・目的、運営法人・ホームの概要・現状説明、ホームの日課や行事予定等の説明、質疑応答等が行われ、主にホームの紹介が中心でありました。今後定期的な開催が実施され、ホームと地域とのさらなる連携への取り組みが期待されます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>相談・苦情受付窓口は明確であり、入居時に利用者・家族に説明しています。普段は家族の訪問時に面談をして対応しています。また、家族会の時にも意見交換会を実施し、利用者・家族の声を聞いています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者との散歩時には、地域の方々や挨拶を交わしています。自治会に加入してから、ホームの庭で開催する納涼祭の時に、自治会のテーブルやイスを貸し出してもらったりしています。今後、自治会行事等への参加を計画されると共に、ホーム行事への招待等も実施され、地域との交流をさらに深められることが望まれます。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもと、明るく、安心した暮らしが継続できる支援を心がける理念を掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールや事務所に掲示され、誰でも分かるようになっています。業務日誌の裏表紙にも貼っており、日々職員の目に触れており、理念を実践する支援に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会から、毎年ホームが開催する納涼祭に使用するテーブルやイスの貸し出しを受けています。		自治会行事等に積極的に参加すると共に、老人会への加入等も検討され、地元との交流をさらに深められることが望まれます。また、ホームで検討されている地元の方のホーム行事等へのお誘いも実現されることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員が自己評価に取り組む中で様々な気付きや振り返りを行っています。外部評価の結果については改善に取り組んでいます。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が前回評価での改善事項でしたが、評価実施後初めて会議が開催され、主にホームの紹介と質疑応答が行われました。しかしながら1度の開催で終わっています。		今後定期的に行われ、活発な意見・情報交換等を通じて地域とのさらなる連携を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の各担当者との相談、連携は取れています。また、ホーム運営上の研修会に参加する等しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付時に必要に応じて報告をし、家族の来訪時には面談を行い、個々に合わせた報告をしています。		ホームの行事や利用者の様子等を伝えたホーム報「グリーン便り」の再刊と金銭出納帳に利用者や家族のサインをいただいております。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況を知らせたり要望、意見を聞いています。また、家族会を開催し意見交換等を行っています。現在のところ不満、苦情はありません。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や交代はありましたが、利用者の動揺や不安を起こさないよう自然になじんで行くよう支援をしています。管理者は職員とのコミュニケーションを図り、働きやすい環境づくりに配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務を勘案し外部研修を受講するようにしています。受講者は受講内容を2次研修としてミーティング時に実施しています。研修受講料、交通費等は支給されています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県央グループホーム連絡会に参加し、情報交換、見学会、研修会等を通じ、同業者との交流を図っています。法人内のグループホーム「えがお」との相互訪問の交流を職員・利用者を含め、月1回、定期的に行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する場合には、利用者の家庭を訪問し、本人、家族と面談すると共に、1週間の体験入居を通じて他の利用者、職員との馴染み作りをし、安心してサービスが受けられるように工夫しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日々の生活の中で利用者とお互いに協力し、利用者の得意分野で役割を担ってもらい、調理や食事の準備、後片付け、洗濯干し・畳み、掃除、レクリエーション準備等を行っています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者とは生活の中で対話を重ね、コミュニケーションを図っています。日頃のさりげない会話の中で、本人の希望、意向等を自然に聞き出せるように心がけて、ケアマネジャーにも伝達しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人の希望以外にも、家族、介護職員、かかりつけ医、訪問マッサージ師等に必要なサービスについて助言を求め、それに基づき、ケアプランに盛り込んで支援をしています。また、毎日の支援状況や経過が記録された個人別経過表を貴重な資料として、参考にしています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的なケアプランの見直し以外にも、状態の変化に応じて、随時ミーティングを行い、ケアプランの見直しを行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や特別な外出等は家族の付き添いが基本となっていますが、家族の状況や要望に応じて必要な支援には柔軟に対応するようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と医療連携契約を交わしており、月2回の定例往診を受けています。その受診については、本人と家族に説明し、納得がいく場合に受診してもらい、専門医の必要のある場合は、原則として家族の対応としています。また、職員が同行する場合があります。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、病院担当者と相談を重ね、本人にとって最も適切で望ましい環境になるよう協議し、対応を図っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで確認をしながら、個人の尊厳を損なうようなケースがないか話し合いをしています。個人ファイルは鍵付き書庫で保管、持ち出し禁止、仕事以外での口外禁止等、徹底した話し合いをしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の日課は、ホームで作成しています。集まるときには皆で集い、その他の時間は個々に自由に、メリハリ、リズムを大切に、各人のペースに合わせたアレンジをし過すようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時には、調理の味付けをしたり、食材の下ごしらえを交代でしています。配膳の準備や食事後の片付け、洗い物等、楽しい気分で出来るようにしています。昨年から、食材は業者から取り寄せ、味付けは皆で行い楽しんでいます。また、外食会も行い、特に回転寿司の時には全員笑顔になっています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回で、必ず職員が付き添って介助を行っています。特に、脱衣、着衣には注意をはらっています。入浴は利用者それぞれが楽しみにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外食会、買い物、行事、おやつ作りなどいろいろな楽しみが、毎月あります。特に、おやつ作りは1ヶ月に1回行いとても好評です。また、1ヶ月半に1度、男女とも床屋へ出掛け、スッキリした気分になっています。ベランダには三段の植木鉢、また、ランを上手に育てる方もいて目を楽しませてくれます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は、必ず1時間ぐらいの散歩を日課としています。体調や気分に応じて、本人の判断にまかすようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険が多いため、家族の了解のもと玄関は施錠しています。外出希望の利用者の安全のため、職員が付き添って出掛けるようにしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練、避難訓練は定期的に行われていますが、災害に備えた非常用食料・備品の準備が不足しています。		非常災害用の食料や備品の備蓄をされることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別の「健康管理表」で毎日の食事及び水分摂取量がきちんと記録され、チェックされています。記録は個人表で、1ヵ月分が確認出来るようになっています。また、食事は個人別に食べやすい工夫もされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、毎日全員で清掃して清潔に保っています。居室は、本人が週1回必ず清掃すると共に適宜清掃し清潔さを保っています。毎月1回、季節を感じる手作りのカレンダー作りを楽しみ、リビングに掲出しています。リビングは明るく、日当りの良い配置になっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が、日常使っていた家具や物品を居室に持ち込み、安心して思い思いの生活をしています。衣類の管理、入れ替えの工夫等は職員が利用者の性格を考えた上で、工夫し手伝っています。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グリーン・ハウス
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	海老名市
記入者名 (管理者)	管理者 島津智子
記入日	平成21年1月5日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所で定めた独自の運営理念を掲げて取り組んでいます。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年に1回、ミーティングで運営理念の確認をしながら話し合っています。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に契約時に説明して理解して頂けるように努めています。地域には自治会に入会しています。		地域の方たちとの連携がとれる機会を増やしていきたいです。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際には近隣の方たちへの挨拶を積極的に行っています。		グループホームを知らない片もいるので、ホームから発信して地域にとけ込む努力をしていきたいです。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、用具の貸し出しを受けたり、地域に根を張って支えられているという実感があります。		ホーム行事に近隣の方や自治会役員をご招待していきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にしていません。		ホーム行事でバザーなどを行い、近隣の方にもご招待していきたいです。また、無料の介護相談窓口の設置をして、気軽に相談できる環境作りをしていきたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、結果を参考にして取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施し、多くの片の意見を参考にしてサービスに反映しています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員と連絡を取らせてもらっています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な人はいませんが、学ぶ機会は少ないです。		取り扱ってる研修などを探して参加していきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書および重要事項説明書を読み合わせながら説明をし、疑問点はその場で受け付けて納得していただいてから契約するようにしています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見等は随時職員が聞いて、管理者まで報告しています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回程度で説明しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段は随時、問い合わせを受け付けており、家族会を年1回行ってそこでも意見・質問を聞くようにしています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の定例ミーティングにおいて意見交換しています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>連携をとりながら柔軟な対応を心がけています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の配置は原則、曜日と時間帯を固定制としていて、利用者様がなじめる体制にしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員が交代で参加できるような工夫をしながら、積極的に受けています。また研修後はホームで2次研修として、研修の要点を他職員に発表して全員で勉強する機会となるようにしています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者の協議会・懇談会に複数参加しており、情報の交換等を行っています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特にしておらず、ストレスはたまりがちです。		運営者・職員間で話し合いをもって意見交換していきたいです。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者として職員とともに現場で働き、各職員の実績等はよく把握しています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様の話をよく聞き、希望や不安なことなどを把握するようにいつも努めています。また定例ミーティングで情報交換して職員間で情報の確認・共有するようにしています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームこられるご家族とは直接話し合うようにし、こられる機会が限られる方には電話で連絡を取り合っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の状況・意志・思い等の情報を収集・整理し、ご家族と話し合って検討するようにしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の際は体験入所期間を設け、ご利用者様・ご家族・職員が納得できる体制にしています。		ご利用者様とご家族が抱える問題について話し合い、他サービスも含めて「何が必要か」を一緒に考えていける体制にしていきます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の半生の話をお聞かせいただく中で勉強になるところも多く、自然と個人を尊重し共感して一緒に過ごせていると思います。		対話の中でもっと利用者様の笑い声を多く聞けるようにしていきたいです。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にもホームの行事への参加を呼びかけており、そこで職員共々交流の場を持って一体感を感じています。また家族が自由に利用者様を外出に誘えるようにしています。		ホームでの利用者様の様子やエピソード、健康状態などを手紙や面接などを通じて報告していきたいと思っています。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と話し合う機会を多く持って、まず家族関係の理解から始め、それを留めた支援を心がけています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数は少ないが、友人が訪ねて来られることもあり、自由に来ていただいています。また、利用者様で携帯電話をお持ちの方も複数人いて外部と自由に連絡を取っています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の相性などを考慮しながら、孤立しそうな場合などは話の輪の中に入れてるように導いたり、利用者様同士の関係作りに努めています。		利用者様の個性がまちまちなのを把握しながら、互いに支え合う関係を作っていくホームにしていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて継続的な連絡を取っています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と生活の中で対話を重ね、コミュニケーションを計る中で本人の希望・意向などを自然と聞き出せるようにしています。		把握した利用者様本人の希望・意向等をケアプランに反映し、ご家族・職員へ代弁者として伝えていきたいと思っています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には細かく基本情報・アセスメント・経歴書の聞き取り作成等をして情報としてまとめ、それを元に本人との会話の中でさらに把握するように努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員で生活記録を個別に記入するようにしており、それを互いに読みあって全体的な把握をするように努めています。		職員全員が把握しやすい記録システムの工夫をしています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様本人の希望以外にもご家族・介護職員・かかりつけ医・訪問マッサージ師等に必要なサービスについての助言を求め、それに基づいてケアプランに盛り込んで支援をしています。		利用者様の心身の状態の変化に柔軟に応じて、関係者との連携をスムーズにとれるシステムの工夫をしています。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なケアプランの見直し以外にも、状態の変化に応じてプランの見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の専用記録様式に記入するようにしていて、何かあればそこに記入するように習慣づけるようにしています。記録は職員で共有できるようにしていて、疑問点などはミーティングで確認するようにしています。またこれを確認・参考にしながら支援計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数のホームなので、本人の意向に沿った小回りのきく支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署員に協力してもらって、救急訓練の講習をしています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設ケアマネージャー等と連絡を取り合ったり、情報交換をしています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働といえるような連携は特にしていません。		利用者様の状況を地域包括支援センターに伝え、協働できることがあるか相談してみます。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診していただける診療所と医療連携契約を交わしており、月2回の定例往診を受けています。その受診については利用者本人とご家族に説明し、納得がいく場合に受診してもらっています。専門医にかかる必要がある場合は原則としてご家族の対応としています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診を受けている診療所ではグループホームをはじめとした高齢者認知用対応の施設を複数運営しており、知識と理解は持っています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	契約している診療所の看護師と連携がとれるようになっており、気軽に相談できるようにしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けて病院側担当者(ケースワーカー等)、ご家族、ホーム担当者の三者で連絡・協議を重ね、本人に適した支援を早期に受けれるようにしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、病院担当者と相談を重ね、本人にとって最も適切で望ましい環境になるよう協議し、選択していただいています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの「医療の側面の支援」の限界点をご家族に説明し、判断していただいています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者の連携を十分に取るようにして情報の共有ができるように資料作成から連絡まで、スムーズに行えるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングで確認をしながら、個人の尊重を損なうようなケースがないか話し合いをしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様への説明を本人に理解できるように説明するように努めており、本人に判断していただくようにしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本の日課はホームで作成しており、その上で各人のペースにあわせたアレンジを加えながら過ごしていただいています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人に合う服などをおお奨めしながら、本人に選んでもらうようにしておしゃれを楽しむ雰囲気を楽しんでいます。服の管理は季節に合わせたものを居室に置いて、すぐに気に入ったものを身につけられるようにしています。</p>	<p>衣類については季節ごとに入れ替えをするのではなく、オールシーズンのもを整理して置いて、本人が自分で選べるようにしてしていきます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理の味付けをしてもらったり、食材の下ごしらえを交代でしています。配膳の準備や終わった後の洗い作業等、できることはどんどんしていただいています。洗いなどの作業中は声をかけて話をしながら、楽しい気分できるようにしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者様の嗜好に沿って、状況に合ったものを共同生活の許される範囲内で提供しています。たばこをすわれる方が1名います。</p>	<p>お小遣いがあるので、上手に活用して好きなものを変えるようにしていきたいと思っています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見て声かけをして誘導し、なるべくトイレで排泄できるようにしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は曜日と時間帯を決めています。		ゆっくりと入浴を楽しめるようにしていきたいと思っています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活のリズムが狂わない程度に、いつでも好きな時間に休息したり眠ったりしています。就寝時間もテレビを楽しむ人や早く床につきたい人など様々ですが自分のペースで過ごしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外食会、買い物、行事、おやつ作りなどいろいろな楽しみが毎月あります。無理のない範囲で能力に応じた役割をいただいています。		趣味など関心が少ない利用者様が少なくないのですが、対話の中で関心のあることを聞き出し、それに合わせたことをしていきたいと思っています。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で選んだものを自分でレジまで持って行って、自分専用のお財布から自分のお金(お小遣い)で支払っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課としています。体調や気分に応じて家で留守番をしてるか、ご自分で判断してもらっています。一人での外出はしません。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人に希望があれば家族と相談し、対応の協力をお願いします。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されればいつでも電話は使っていただいています。携帯電話を持っている方もおり、居室でプライベートな話もされています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来ていただいて、居室でくつろぎながら談話されています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	勝手に外出してしまう利用者様がいるので、玄関はカギをかけています。出るときは必ず職員が付き添いながら出るようにしています。		庭も癒しの空間としてもっと活用していきます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守り、声かけをして安全に配慮しています。就寝後も定時で巡視しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1カ所に預かって保管をしておき、必要に応じて職員が取り出して本人に渡すようにしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを実施していて毎月ケースの検討をして事故防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の体調には定時のバイタルチェックを必ず行いようにして、その記録を職員全員に見てもらい、情報の共有をしています。また、救急方法の講習を消防署に来てもらって受けています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練・避難訓練を定期的に行っています。		地域の方にも協力を呼びかけていきたいと思っています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明時にご家族と話し合って理解してもらっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化が合った場合は職員間で連携をよく取るようにして全員で注意深く見守るようにしています。交代勤務なので申し送りもしっかりするようにしています。必要に応じてかかりつけ医と連絡を取って指示を受けるようにしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋に服薬予定日付をあらかじめ記入するなど、ミスがないように工夫しています。また、処方箋をわかりやすいところにおいて確認しやすい工夫をしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段から水分摂取量の記録を取って一定量以上は水分を確実にとれるようにしています。また便秘がちの人には一緒に運動するなどして予防に努めています。		排泄記録を作成し、排泄パターンと水分摂取量を職員全員で把握できるようにし、起因と改善策を考えて取り組むようにしていきます。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアとして歯磨きの励行、入れ歯の管理、訪問歯科検診の受診等を行って口腔内清掃と指導を受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をとってチェックしています。個人別に食べやすい工夫(食事を小さく刻む)もしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種(インフルエンザ)を実施しています。衣類・寝具類の衛生保持(日干しなど)に注意し、手洗いの時に消毒をするようにしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事は作り置きせずに暖かいうちに食べて残さないようにしています。また、冷蔵庫内の清掃をして衛生に保ち、古い食材・調味料は破棄しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭住宅の玄関なので花で飾るなど訪問しやすい雰囲気にはしています。		ご近所との関わりをもっと増やしていきます。(バザーの実施など)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は毎日全員で清掃し、清潔に保っています。また、カレンダー作りを毎月して季節の移り変わりを実感してもらう工夫をしています。部屋に花を飾ったり、季節もの(風鈴など)を置いたりします。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所に大きめのソファがあり、くつろいで過ごせるようになっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が日常使っていた家具家財を居室に持ち込み、安心していただいています。(タンス・仏壇・時計・パソコンなど)		利用様本人の意見を取り入れた居室の飾り付けをしていきたいと思っています。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日こまめに行っています。天気のいい日は大きめに窓を開けて部屋全体の空気が入れ替わるようにしています。空調は全室エアコンで個別のリモコンでこまめに制御しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分に限定して手すりをつけたりしてなるべく自立をうながすようにしています。階段には昇降機が設置されていますが原則は使用禁止にして非常時にしか使わないようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個別の残存能力がどこまであるのか、見極めるように努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭とベランダにはテーブル・イス・ベンチなどを置き、自由に使えるようになっています。そこで新聞を読んだり花を飾って眺めたり思い思いに過ごせる環境にしています。庭は職員で担当者を決めて管理し、花が咲いていたり野菜がとれるようにしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外食会を毎月行い、利用者様も楽しみにされています。この会の準備は毎回職員が持ち回りで受け持ち、下調べからメニューの取り寄せなどして、利用者様が安心して楽しめるように工夫しています。季節ごとの行事も多く、特に年3回はご家族もお誘いして盛大に行っています。外部の協力も積極的に受けるようにしていて、消防署の救急訓練講習やそば打ち会ボランティアの出張そば打ち会など、幅広く協力していただいています。利用者様への接し方の基本としては「話をよく聞き、何を希望しているのかを常に考える」をモットーとしています。ただ年代差、個人差によって希望する事柄の幅が広く、共同生活の部分で折り合いをつけていくのに腐心している状況でもあります。そこは利用者様も「協力し合う楽しさ」を感じてもらえる点として理解してもらっています。運営していてよく感じるのは、そういった利用者様の協力があってホームの運営が成り立っている、ということです。そういう意味でもホームの主人公は利用者様のお一人お一人だと実感いたします。